

わかさわん しぜんはともだち

～近隣市町と連携した海の自然体験の機会と場の提供

国立青少年教育振興機構 国立若狭湾青少年自然の家（福井県）

<https://wakasawan.niye.go.jp/>

取組の目的・背景・沿革等

🌿 地域の環境や状況

美しい海、若狭湾に面している福井県の若狭地域。海、山、川、湖といった自然が身近にあり、四季折々の自然に囲まれている。

🌿 取組の経緯・背景・理念等

自然豊かなこの地域でも、子供たちが「海」と触れ合う経験はそれほど多くない。地域の特色でもある美しい海や自然で自由に思いっきり遊べるような機会と場を提供したいと考え、近隣の幼稚園、保育園、認定こども園と連携し、年長児を対象とした日帰りの事業「わかさわん しぜんはともだち」を実施している。

取組の概要

🌿 取組の内容

「わー！きれい！」「キャー、冷たい！」ライフジャケットを着た子供たちは、大きな声を上げながら砂浜で裸足になり海に入っていく。少し進むと、「浮いた！」、足が届かなくなる。そのまま沖に向かって泳いで行く子、あわてて戻る子、浜から様子を見ている子など、海との関わり方は様々である。イカダにたどり着いた子に「飛び込んでごらん！」と声を掛ける。ためらいながらもジャンプ！その楽しさに何度も繰り返し飛び込む。海を怖がっていた子も友達が楽しそうに遊ぶ姿を見て、いつの間にか一緒に沖に行っていた。タイドプールという岩で囲まれた人工的な潮だまりには、ヤドカリやカニ、貝がたくさんいる。岩の奥まで手を入れて夢中になって探している子、深くなっているところで浮いている子、捕まえた生き物を観察している子、ここでも子供たちの姿は様々。このような海での体験に加え、秋には山でのハイキング、冬には、園の地域の自然を活用した体験も実施し、子供たちが自然と触れ合える機会と場を提供している。



🌿 施設や場の特徴、プログラムの特徴

砂浜とタイドプールという環境の異なる活動場所を準備する以外、特に遊具などはない。諸感覚を最大限に使って自然の中で遊ぶことを大切にしたいと考えている。10時から14時半までの間、園ごとに子供たちの様子を見ながら、活動場所を移動したり、休憩をしたり、昼食をとったりしながら過ごす。ゆったりとした時間があることで、工夫したり、挑戦したり、繰り返したり、一人ひとりが思い思いに、また、友達と一緒に自然と関わることができるようにしている。

🌿 実施体制について

先生方を対象とした1泊2日の研修の機会も設けている。シーカヤックや無人浜のテント泊、野外炊事などの体験を通して、子供の頃に戻ったように自然の中で夢中になれる機会を提供し、子供たちが感じているドキドキワクワクする思いに想像を巡らせ、子供たちの気持ちに寄り添える指導者の育成を行っている。

🌿 安全性への配慮

ライフジャケットを全員が着用し、飛び込んだり、波にもまれても、必ず浮くという安心感があることで、大胆に遊ぶことができる。また、各園に1名以上の当施設職員を配置し活動に寄り添うとともに、全体が見渡せる場所への監視者の配置や救助艇の待機により、不測の事態にも備えている。

🌿 地域機関・団体との連携

近隣市町の保育や幼児教育担当部局及び各園と連携し、福井県小浜市、若狭町、高浜町の全ての年長児が参加している。高浜町は、地元の若狭高浜観光協会が主体となり、国際認証「ブルーフラッグ」認定を受けた若狭和田ビーチで海の体験を実施している。

取組による効果

🌿 子供・保護者への影響

子供たちには、海の体験の前後で、海の絵を描いてもらっている。体験後の絵は、人が描かれていたり、海の中に人を描いたり、体験を通して気付いたことや感じたことが生き生きと表現された絵が多くなっている。



🌿 地域社会への影響

事業を通して先生からは「山や海に行くことで、保育士が更に積極的になり、園の周りの身近な自然はどこにあるのか、どうしたら楽しめるのかを常に考えるようになった」という感想が聞かれた。今後も、身近な自然にも目が向いていくようになることを願い、この事業を継続していきたいと考えている。

取組を通じて全体的な所感

自然の家は、「子供を野山に放牧しよう」という考えで設置された。その考えを大切に、自然の中で子供たちが自由に遊べる機会と場になるように心がけている。この体験を通して、地域の自然の豊かさに気づき、地域に愛着を持てるようになることを願っている。